

# 平成 29 年度市川市社会福祉審議会 第 4 回地域福祉専門分科会 会議録

1. 開催日時：平成 29 年 12 月 18 日(月) 午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分
2. 開催場所：市川教育会館 2 階 研修室
3. 出席者
  - 【委員】
  - 会長 高田委員
  - 副会長 加藤委員
  - 委員 石原委員、岸田委員、萩原委員、古瀬委員、堀江委員、村山委員、山崎委員  
(欠席者：0 名)
  
  - 【市川市】
  - 若菜福祉政策課長、杉山地域支えあい課長、加藤介護福祉課長ほか
4. 傍聴者 2 名
5. 議事  
次期市川市地域福祉計画（答申案）について
6. 配布資料
  - ・分科会資料 7 第 3 期地域福祉計画進捗状況
  - ・分科会資料 8 第 4 期市川市地域福祉計画【平成 30 年度～平成 35 年度】(素案)
  - ・分科会資料 9
  - ・参考資料 1 第 7 期市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画に係る地域の関係者が参画する会議体一覧について

項 目	内 容
	<p><b>次期市川市地域福祉計画（答申案）について</b></p>
高田会長	<p>それでは、「次期市川市地域福祉計画（答申案）について」です。福祉政策課より、説明をお願いします。</p>
福祉政策課	<p>（分科会資料7 分科会資料7 地域福祉専門分科会・パブリックコメント・地域懇談会でのご意見の答申（案）への反映について、分科会資料8 第4期市川市地域福祉計画【平成30年度～平成35年度】（答申案）に基づき説明）</p>
高田会長	<p>ただいま、福祉政策課より説明がありましたが、何かご意見、ご質問がありましたら、お願いします。</p>
村山委員	<p>分科会資料9「総合型地域スポーツクラブの育成を図る」とあり、担当が「市川市スポーツ振興基本計画」と記載されていますが、こちらは部署としてはどのような課が関わっているのでしょうか。また、地域にはボランティアの方として「スポーツ推進委員」という方がいらっしゃいます。その方々の存在もとても大切だと思いますので、そのあたりが今期で記載するのは難しいかと思いますが、今後地域福祉計画の中でも表記できれば良いと感じました。</p>
福祉政策課	<p>「市川市スポーツ振興基本計画」については、文化スポーツ部スポーツ課の所管です。スポーツ課の了解を得て掲載をしております。「スポーツ推進委員」については、まだ確認が取れていませんので回答をいたしかねます。</p>
古瀬委員	<p>私が前回、総合スポーツクラブのことをかなり話してしまったので、クローズアップされてしまったのだと思いますが、先週、高齢者が一番長寿な県はどこか発表されていて、男性は長野県に変わって、滋賀県でした。滋賀県が変わったところは、県全体で高齢者向けの体操教室を増やしたそうです。それが反映された結果だとすれば、総合スポーツクラブももちろん必要ですが福祉サイドから全体的に高齢者の運動を推進すると、それが介護保険料を増高させない対策にもつながっていくと思いますので、今後そのような考えを持って進めていただければと良いと思います。次に、分科会資料7の7ページ「生活支援ニーズは喫緊の課題である。現実に困っている人がいる。今はどうしているのか。そして、これからはどうするの</p>

<p>介護福祉課長</p>	<p>か。」という質問に対して、かいつまむと市では介護保険事業所の方でやっている自費のサービスと、NPO法人が会員サービスとして年会費をいただいているなかで年会費を取ってゴミ出しや病院への付き添いをしているということで、市としてはそういう事業に期待しているということだと思いますが、現行の介護保険サービスでは難しいかもしれないが、市の一般会計から援助することは難しいのでしょうか。</p> <p>介護保険のような法定事業でも予算が満足につかない状況で、現実的にはご期待に沿うのは厳しいという感覚ではおります。可能な限り検討させていただきたいですが、財政的な援助は難しいという認識でおります。</p>
<p>萩原委員</p>	<p>社会福祉協議会で、分科会資料7の先ほどのページの一つ上の段の回答外のところに、「お互いさま事業」という助け合いの事業の実施を検討しているとあるように、14ブロックある地域の全てで何かお助けができないかを検討していただいております。真間地区や南行徳地区ではかなり進んでいます。分科会資料9の2枚目「【役割分担】自助」の日常の散歩やゴミ出し、出勤時や地域の行事等の際に挨拶をする、自治会等に参加し、地域の活動に参加をする、そういうことを通して、困っている人がいれば助けてあげる、自分が困ったら助けてもらうという、お互いさま事業を考えている。なかなか難しいと思いますが、次期でも掲げていきたいと思っています。</p>
<p>古瀬委員</p>	<p>「お互いさま事業」とは、少し弱った高齢者を高齢者が助けるというイメージですか。</p>
<p>萩原委員</p>	<p>「介護保険の認定を受けている方も受けていない方も」ということで、すべての困っている方という考え方をとっています。ただ自費をどうするかというところがネックになっていることと、担い手をどうするかというのが現在の検討課題となっています。またこれが、住民主体の「訪問型、通所型サービスB」とどのように関わっていくかということも問題になってくると思っています。</p>
<p>岸田委員</p>	<p>分科会資料7の2ページ「市川スポーツガーデン国府台」の回答にあるように、事務分掌上の制約があって協働が難しいという現状があり、何かつながっていかうとすると財政上の問題があります。その中で社会福祉協議会のお互いさまのコミュニティでの支えあいというのが構築されてきたというのが、非常に美しいストーリーになっていると思います。ただ助けるという行為にいく前に、まず人間関係が作れていないと難しいのではないかと思います。かつては同じように農業や漁業等をして協働で働くコミュニティで支えあっていたが、今は例えば、隣がライバル会社の社長で</p>

堀江委員	<p>あったり、何か共有して作るものがありません。そういう意味では、以前に堀江委員が仰った、世代を越えて参加できる季節の行事や祭りなどは、既にさまざまな地区でお祭りをやっているのです、ここは核になると思います。日本人の特徴として、ハロウィンもクリスマスも神社の秋祭りもありますので、地域が活性化するのであれば、そういうものも上手に活用して、楽しみながら、それが支えあいにつながれば良いと思いました。</p> <p>昔と違って近所づきあいが全然なくなっていました。そういう中で、お祭り等は飛びつきが良いので、うまく利用できれば良いと思います。実際に地域でやっているところもあるので、うまく活用しながらコミュニティを広げていくということを政策的に考えても良いのではないかと思います。ただ、市がやると商業ベースになるとまずい等で難しい部分があるので、推進はするが主体にはならず、地域振興課を煽っても良いし、地区でそういうことに取組んでもらえれば良いと思います。私は特に子どもを育ててもらいたいです。これからの担い手ですから、子どもがその地域で楽しめれば、地域が活性化します。しかし大人になると市川は都会に近く、地域に残ることもできるのに出て行ってしまいます。そこをうまくつなぎとめて、市川で育ったという郷土愛があれば、地域の担い手になってくれるのではないかと思います。</p>
加藤委員	<p>今は人口が減って、昔はあった子どものコミュニティも高齢者のコミュニティもなくなっていました。郷土愛という言葉聞いて、私もこの土地で育ちましたので自分のことを言われているように感じました。</p>
山崎委員	<p>午前中に病院ボランティアをしてきてお話をした高齢者のご夫婦の方が、ゴミ出しの問題で、近所の方にゴミを出していただいて助けていただいているという話を最初にされたので、この問題は非常に重要だと感じました。</p>
石原委員	<p>保健所では健康という問題に関わっていますが、健康に問題がある方は健康について意識を持っているので、イベントをしても何をしてでも集まってくれるし、関心を持ってくれます。逆に問題がなく不安なことがないと、そういうことに関心がなく、イベント等にも来てくれません。そういう人の健康増進こそ大切だと思っていますが、「健康まつり」というようなタイトルのイベントでは、そういう方は来てくれません。健康や障害者というような言葉を使うイベントをすると、それに関心のある方しかこないのです、広くそれ以外の方にも来ていただこうとすると、一般のフェア、地産地消のような、他の部局の力を借りないといけません。何か楽しいことや興味のあることに、副産物の形で健康に意識を持ってもらうということ</p>

	<p>も、そういう周知・啓発が大切かと感じています。これは福祉も同様で、多くの人に興味をもってもらえるような楽しいことをツールにして、福祉とか地域づくりということを広げてつなげていくと良いと思います。できれば、市で部署を越えて、全庁的なものの中で一つ、地域を作っていくということを出していければ、大きな広がりをもつ福祉計画となるのではないかと感じました。</p>
福祉政策課長	<p>まずは足を運んでもらうということが大切だと思っています。参加してもらって、そこからどのように関心を持ってもらうかを検討していければと思います。これは自分たちの部署だけでなく他の部局と連携しながらやっていくことが重要だと考えています。また、コミュニケーションの必要性は重々感じておりますので、連携を進めていくことが大きな課題だと思います。</p>
岸田委員	<p>分科会資料7の10ページで「税金を納めているが、その恩恵が感じられない。社会の仕組みを理解している人が得をするようにできている。」とあり、実態として市民の皆さんがそういう考えを持っているということ審議会でも認識しつつ、その一方で「我が事・丸ごと」として、地域で支えあうことが柱になってきました。その前は介護保険で社会が支えると、その前の措置制度は、国が丸抱えするようなイメージだったのが、徐々に突き放されているように感じてしまいます。一方で、それが現場に投げたまま好きにやってくれということではなくて、行政の壁を越えて、事務分掌を越えて支えあいの仕組みを作るんだということ、PRのところで強調していただいて、我々も、こういうことを思っている人がいるということには、敏感になるということが大切だと思っています。</p>
村山委員	<p>112ページ「コラム福祉教育【各学校における取組例】」で、「知的障害や自閉症の理解のための疑似体験の講演」というのがあって、何年も前から既に行っています。先ほどの子どもを育てるところではとても重要で、福祉教育の時間の例の一つとして加えていただければと思います。次に95ページ「福祉避難所」について、内容の書き方が弱いと思います。例えば、福祉避難所として提携しているところを具体的に記載する、発生時において開設可能な場所が市内に何カ所目指す等、今から書けないかと思いますが、可能な範囲で加筆していただければと思います。最後に地域福祉の担い手ということでは、自治会、民生委員に頼っています。しかし、地域に存在するものとするれば、商店や学校など、住民ではなくても地域に存在していますので、そういう方々の活用についても計画の中に触れてほしいと思います。例として、藤沢市の福祉健康部の地域包括ケアシステム推進室というところが、「地域の縁側事業」という事業をやっていて、マ</p>

高田会長	<p>クドナルドのお店が地域貢献としてフロアを週に2回、地域に解放してくれるものです。法人が市から委託されていて、お店の2階部分なので、マクドナルドのお客も自然に入ってきて、日替わりでそこで手話教室などをやっていたり話をする場等にしていて、障害の法人がやっているが、対象は高齢者も子どもも入っています。市川でもそういう誰もが来る場所を提供してもらうような企画を考えてはどうでしょうか。住民だけではなく、いろいろな方を巻き込む工夫も必要だと思いました。</p> <p>一般事業団体、事業団体、商店街との連携、活動拠点の提供等、地域貢献していただけるようなところも地域福祉に関わってくるのだと感じました。</p>
萩原委員	<p>社会福祉協議会ではサロンをしていて、サロンは公的施設を使わせていただいているが、最近は個人宅を解放していただいたり、空き店舗や病院を使わせていただいている、そこから徐々に広がっていくと良いと思っています。また、地域福祉計画というと高齢者だけのように感じてしましますが、子育てサロンというのが増えてきていて、小さい頃から福祉の恩恵を受けて、大きくなるとそれを返すことができる一番良いと思います。この対象を広げていくことが、地域福祉の特に大きな課題だと思っています。分科会資料8の116ページ「市域活動応援制度の創設・実施」ということで何がしかの事業が出てきましたので、コラボして何かやっていきたいと考えていますし、大学の方とも、和洋女子大学や千葉商科大学と連携しています。今の市川の弱みとしては、子どもたちが18歳くらいから市川市に入ってくるが、子どもが生まれて小学校頃で出て行ってしまうという特徴があります。市でもやっているとは思いますが、小学校以前に行かないような対策を増やさないといけないと思っています。そのためにはまず場所の確保が重要で、場所があれば人材が育っていくと思います。</p>
高田会長	<p>他にございませんか。</p> <p>福祉政策課から説明のあったとおり、本日のご意見の反映及び今後必要が生じた修正等につきましては、私と福祉政策課で検討させていただくということでよろしいですか。</p>
全員	<p>(異議なし)</p>
高田会長 終了	<p>以上をもちまして、平成29年度第4回地域福祉専門分科会を終了いたします。</p>

市川市社会福祉審議会地域福祉専門分科会  
会長 高田 俊彦